新春座談会
回顧と展望

新たな決意で闘おう

一九八三年を迎えて、昨年の回顧と今年の展望を大いに語っていただきます。

春闘をはじめ諸闘争の結果は、地下労働にふさわしい労働条件を獲得することができず、長引く不況のもとで、とりわけ石炭産業のきびしさを痛感しましたし、夕張新鉱も閉山・全員解雇となりました。またいぜんとして炭鉱労働者の命が奪い続けられています。

このような中で、私たちの生活や職場の実態はどうでしょうか。中曽根内閣の発足と、こんごの政治革新、労働運動のあり方など決意もお願いします。

――司会のことばから。座談会は二時間にわたるものでしたが、紙面の関係で要約となりました。

出席者

立山義人さん（2分会・四山・42歳）
早田正次さん（10分会・三川・51歳）
椛島敬三さん（11分会・三川・37歳）
西山正勝さん（16分会・本所・49歳）
平川道治さん（17分会・港務・41歳）
司会・杉本編集部長
記録・村中編集部員

賃上げの実感ない 請負給に矛盾が

司会　八二春闘をふり返っていかがでしたか。

椛島　八二春闘で一万四百四十四円賃上げになったのですが、私の場合十月からの展開を計算しますと、三百七十二円なんです。マイナス七十二円です。また、四月から九月までの賃上げ未払い分が今年の三月支払われますが、物価上昇の今日ではどうにもなりません。春闘で賃上げを闘いとったという気になりません。

椛島さん

妻の内職、母の遺族年金で生活はやっとです。一～二万円でも貯金できるような賃上げを、春闘でとりたいですね。

早田　アール計算の支払い期間だけ賃上げがあったと感じていましたが、今度の場合は棚上げでしょう。賃上げがあったと感じませんよ。これは夕張と同じ労務債ですよ。不況だからしかたがないという、あきらめムードをつくる思想攻撃だと思います。

平川　港務所の場合、十日から労働調整による賃金配分がきまったのですが、年配者にあつく、若手にうすいといった内容です。

港務所の賃金がいかに安いかという、こんな事例があります。港木材という第二会社に出向していた人が帰ってきたのですが、港木材は職安を通して人を入れるより、港務所から入れたが安い賃金ですむというので、また出向になりました。

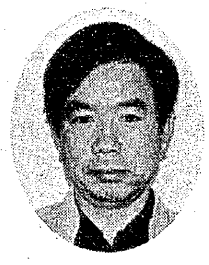
西山　本所の職場では要求づくりから、七～八パーセントというのに不満ですね。年齢、勤続年数からみますと、炭鉱は他社の半分の賃金でしょう。

あくまで夕張再建へ たたかいの持続を

これの七～八パーセントといっても差は開くばかりです。額で要求してもらいたいですね。それも能率上昇のはねかえりをはずして、基準内を基礎にした、要求づくりをやるべきです。

立山　九月の所得賃金をみたんですが、採炭で最高が五十二万円という人がいます。私たちの仕繰賃金で総計二十一万円ぐらいですよ。坑内にもB給があり、C給（請負給）との格差がひろがっています。請負給そのものに矛盾がありますね。

司会　夕張閉山反対闘争についてはどうですか。


早田さん

早田　一番の関心事は夕張闘争だったですね。百二十三億円もの労務債ができるまで、なぜ黙っていたのかと批判されましたが、私はこう思うんです。

夕張の人々は代々、炭鉱で育ってきていますので、炭鉱以外に生きる場がないと思っているんですね。この心情をうまく利用して、会社が合理化を強行してきたのだと思います。

立山　会社の合理化攻撃が上手ということを、闘いのなかで感じました。新鉱再建という夢をちらつかせて、ずるずるのばしてきたやり方などですね。

西山　閉山反対闘争の闘いかたですが、山元では出勤しながら闘っているので、中心は札幌や東京になっています。山元を中心とした闘いは組めなかったのでしょうか。

平川　夕張問題で三池がストした時、新労の委員も、こういうことは絶対許されないと言っていました。マスコミもとりあげ、世論も夕張を支持していたわけですから、最後まで闘うべきだったと思います。

立山　山元には執行部も残っており、闘いの力を持続してあくまで再建を目指さなければと思います。

進む人員減と下請化 増える職場の不満

司会　職場の実態についてふれて下さい。

椛島　坑外職場のカッター修繕など長残業が多く、補充もありません。製缶工場などの下請化が進んでいます。

平川さん

西山　本所も同じですね。人員減に伴い下請化になっています。病院では、患者の少ない病棟は閉鎖しています。

平川　港務所も、生産が落ちた、暇になった、輸送量が減った、売り上げが伸び悩んだなど、いろんなことを言っていますが、現場は少しも変わらず忙しいですね。

立山　ZDがかなり進行していますね。係員が繰り込むと、それに関連した仕事を、言われてもいないのに自分でします。自分で自分を追いこんでいます。だが、逆に不満も増大しています。最近、コンベアをひくからといって休憩所を要求すると、三池労組員だけのを作らせ、新労員は現場近くで座って休んでいるだけです。要求しないと作らないのです。

自分の足で歩かねば 困難も多いが

司会　職場での取り組みはどうですか。

立山　昭和五十年以降、四山鉱では六百人以上採用しています。新人が多いので組合のこともあまり知らないし、三池労組についてあまり関心はないようです。

西山　私たちの職場は、三池労組が常一番、新労が三交替となっていて、全然接触がないのです。

西山さん

立場を明確して闘う 行革と労戦は一体

司会　労戦統一も、今年が重大な時期を迎えますが、どうですか。

西山　全民労協への参加は、三池闘争以来二十二年の苦しい闘いの歴史を捨ててしまうのではないのでしょうか。私たちは、戦前からの労働組合の歴史から苦い教訓を学びとるべきだと思います。

立山　考えかたが違うのに、無理に一緒になること自体おかしいと思います。同盟は民社党支持でほとんど自民党と一緒に組んでいます。闘う労働組合として、立場を明確にすべきです。

立山さん

早田　行革と労戦統一は一体だと思います。準備会から今までの経過をみて、密室化され暗い部分が多すぎます。三池闘争以降、炭労とのかかわりは深いのですが、態度を明確にしないと、三池労組もかという見方をされます。組合も組合員も毅然とした態度と決意が必要だと思います。

椛島　職場の権利や生活がおびやかされているのに、闘えない組合になってしまう。炭労はよく考えてほしい。

平川　炭労が参加するかどうかは大衆討議になると思うが、きっぱりした態度を示してほしいと思います。

会社内の問題は、労使の職場協議会で出しているようです。だから、職場分会の活動も困難になってきています。

平川　港務所の場合も、分会の活動が困難になってきています。期末闘争もそうでしたが、別交渉になり、こんごの闘いは、自分たちの足で歩かねばならないと痛感しています。

政治の革新めざす 展望を持って

司会　今年は重大な政治決戦の年ですが、決意のほどを。

早田　県知事、北九州市長も保守に握られています。今年早々の北九市長選は革新の突破口として、ぜひ勝たねばと思います。そのためには、私たちのムードを盛り上げ、浮動票まで組織すべきです。

椛島　かって革新が勝利した時期があり、たたかいとる展望を持てば必ず勝てると思います。革新が勝利し、物価や福祉など生活につながるものを向上させたいと思います。

立山　監査請求の署名が、そのまま組織されるとは思いませんが、あんなに悪いことをやったら、駄目だということを見せてやりたいですね。

西山　行革の流れ、軍拡の流れを押し進めている現在、これに歯止めをかける闘いとして、選挙戦に取り組むつもりです。

平川　市議候補の保守、同盟らは、あらゆる組織を生かして、地域別に組をつくらせ、時間中でもやっている場合もあり、私たちも政治の革新をめざし、闘いを強化すべきだと思います。

原点に立ってやる気を 重大な保安確保

司会　新年の抱負をどうぞ。

立山　昨年、四山鉱では斜坑人車の災害、重連の脱線など運搬災害が続出しました。落盤その他、間一発の災害も続いています。生命を守るために、保安問題は今年もおろそかにできません。

椛島　保安部あずけ、現場あずけなどを問題にしないと、災害は減らないと思います。私は三池労組内で二番目に若いのですが、将来に不安もあります。組合員同志の意志疎通ができない状態もあり、日常の課題を含めて、執行部の情宣もほしいと思います。

昭和三十八年災害直後の苦しい闘いをしてきた原点に立って、今こそみんなやる気になるべきです。

早田　会社の災害を隠す姿勢こそ、逆に災害を増加させる要因になっています。この点を徹底して追及していく姿勢を、持っていきたいと思います。

政治、労働運動が右へ右へという中で、じっくりと腰を落ちつけた、幅の広い闘いが必要ではないかと思います。

西山　組会議が最近開かれません。今年は月一回組会議を開き、決められたことはやっていく。また話し合いを強めていきたいと思っています。

平川　今年四十三歳になり、ヤク年も終わり新たな気持でやる決意でいます。まず、編集体制をつくりあげ、職場新聞を発行し、職場のいろんな活動に役立たせたいと考えています。

また、期末の家族手当の廃止、格差是正など労働条件の悪化にたえず眼をむけ、モノの言える職場にしていきたいと思っています。

立山　高齢化してくると、身体が動かず、気が弱くなりがちですが、組合活動はみんながコツコツやっていく以外にないと思います。

司会　新たな決意でともに頑張りましょう。